

甲斐市立竜王小学校 自己評価書

令和7年1月31日（金）作成

校長 「 松井 渉 」

記述者 職名 教頭 「 久保田 勲 」

学校教育目標 「明るく元気な竜の子」の育成

- ・た・・・助け合う子供・・・（情）
- ・つ・・・強い心を持った子供・・・（意）
- ・の・・・伸び行く体の子供・・・（体）
- ・こ・・・根気強く学ぶ子供・・・（知）

学校経営方針

- （1） 教職員の英知と和を結集し、学校教育目標の具現化に努める。
- （2） 児童一人一人の自己実現を目指す学校づくりを推進する。
- （3） 研修活動を活性化し、自ら学ぶ授業づくりを推進する。
- （4） 特色ある学校づくりに努める。
- （5） 安全・安心な学校づくりに努める。



1 全体評価

本校の学校評価は、次の7観点で行っている。

- I 学校教育目標・学校経営について
- II 学校運営について
- III 学習指導について
- IV 生徒指導について
- V 地域との連携について
- VI 学校の特色に関して
- VII 創甲斐教育について

また、教職員自己評価及び保護者用アンケートのそれぞれの設問は、右のような5段階評価で、小学生用アンケートについては4段階評価で行っている。教員自己評価において、「E：わからない」については担当

外の場合のみつけている。また、年1回の実施のため、前年度の結果を踏まえながら検討している。

5段階評価〈教職員・保護者〉

- A：とてもそう思う（青）
- B：そう思う（オレンジ）
- C：ややそう思う（黄）
- D：そう思わない（緑）
- E：わからない（紫）

4段階評価〈小学生〉

- A：とてもそう思う（青）
- B：そう思う（オレンジ）
- C：ややそう思う（黄）
- D：そう思わない（緑）

（1）教職員自己評価について

校長の経営方針である子供たちが学校を楽しみと感じるワクワクする教育活動を推進するために、教職員が「まるかって（甲州方言：組織一丸となつて）」協働し、研鑽を積んできている。

特に今年度は、次の5点に重点をおいて具現化を目指した。

- ・笑顔あふれ、豊かな心が育つ、温かい学校づくりの推進
- ・「わかる・おもしろい授業」が展開できる、楽しい学校づくりの推進
- ・健康でたくましい体が育つ、健全な学校づくりの推進
- ・地球を愛し未来を拓く力が育つ、開かれた学校づくりの推進
- ・教職員が研鑽に励む、活力ある学校づくりの推進

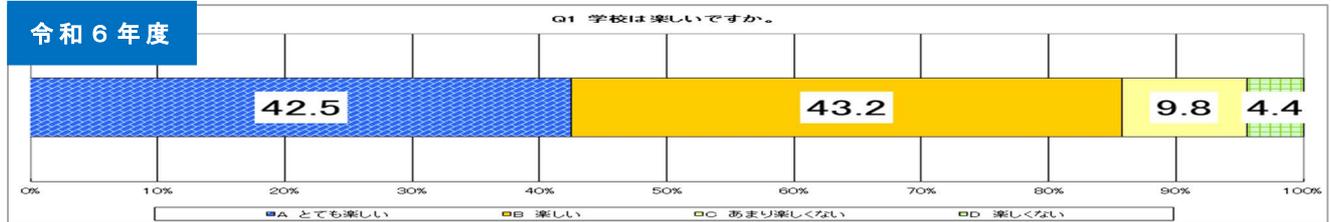
以上の重点をしっかりと念頭に置き、教職員の自己評価を行った。

設問の39項目中37項目で「A+Bの肯定的評価」が95%以上となっている。また、22項目でAと回答した割合が一番多く、前年度の9項目を大きく上回っている。さらに、33項目で前年度よりAの回答率が上がっている。

教職員が日々、子供たちのために誠実に職務に専念している姿勢が表れている。

(2) 小学生アンケートについて

「学校は楽しいですか。」の肯定意見が約85.7%となり、多くの児童が学校生活に満足する状況である。一方、4.4%（14名）が「楽しくない」と回答している。引き続き、日常的に子供たちとかかわる中での見取りやQ U調査の丁寧な読み取り等により、児童一人一人に対して、きめ細かな指導を行っていくことが必要である。



Q 学校は楽しいですか。(児童アンケート)

(3) 保護者アンケートについて

「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見約93%だった。前年度までと同様、学校に対して好意的な評価であることがわかる。



Q お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。(保護者アンケート)

2 観点ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標・学校経営について

(1) 達成状況について

番号	I 学校教育目標・学校経営について	令和5年度				令和6年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
	質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたは、学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動を行っている。	36.7	63.3	0.0	0.0	67.7	32.3	0.0	0.0
2	あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。	46.7	50.0	3.3	0.0	61.3	38.7	3.3	0.0
3	あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。	43.3	56.7	0.0	0.0	67.7	32.3	0.0	0.0
4	あなたは、PDCAサイクルを生かした、教育活動を行っている。	30.0	70.0	0.0	0.0	58.1	41.9	0.0	0.0
5	あなたの学校は、特別支援教育の体制が整い、機能的に行われている。	17.2	55.2	20.7	6.9	16.7	60.0	16.7	6.6

凡例 ←前年度よりAの回答率が上がっている項目

←2年連続でAの回答率が下がっている項目

学校教育目標や学校経営については、教職員が「まるかって」職務にあたり、5項目中4項目でA評価の回答率が高くなっている。校長の経営方針に基づいて教育活動がなされ、一定の成果を得ていると考えられる。

一方、特別支援教育の体制整備と機能化においては、前年度と同様に、Aの回答率が低い。教職員の欠員状態が続く中、特別な支援を必要とする子供たちへのきめ細かな指導体制に課題がある。

(2) 改善策について

- ① 今後も、カリキュラム・マネジメントについての全教職員への理解を、研修などを通してより深め、PDCAサイクルを活用しながら効果的・効率的な学校経営や教育活動を目指した改善を継続していく。
- ② 引き続き、多様な子供たちを誰一人取り残すことがないように、日々の支援体制を含めて、特別支援コーディネーターを中心に、校内支援委員会やケース会議の効果的な運用に努めていく。一人一人の子供たちのニーズに応じた合理的な配慮とその指導法について、学校体制で取り組めるように、教職員間での情報共有を確実に行っていく。

II 学校運営について

(1) 達成状況について

番号	II 学校運営について 質問内容	令和5年度				令和6年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
		回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたは、危機管理マニュアル（防犯、防災、事件、事故等）を理解している。	33.3	63.3	3.3	0.0	53.3	46.7	0.0	0.0
2	あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。	70.0	30.0	0.0	0.0	87.1	12.9	0.0	0.0
3	あなたは、他の教職員と連携して協働体制で、教育活動にあたっている。	63.3	36.7	0.0	0.0	83.9	16.1	0.0	0.0
4	あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている。	76.7	23.3	0.0	0.0	83.9	16.1	0.0	0.0
5	あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている。	32.1	67.9	0.0	0.0	36.7	63.3	0.0	0.0
6	あなたは、校務支援システムを十分活用できている。	43.3	46.7	10.0	0.0	35.5	61.3	3.2	0.0
7	あなたは、業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている。	40.0	60.0	0.0	0.0	76.7	23.3	0.0	0.0

凡例

←前年度よりAの回答率が上がっている項目

←2年連続でAの回答率が下がっている項目

すべての項目において肯定的な回答であり、多くの教職員が主体的に学校運営に関わっているといえる。特に設問2, 3, 4, 7については高い数値を示しており、毎日の教育活動が、まさに「まるかって」コミュニケーションをとりながら協働して行われていることがうかがえる。特に、働き方改革については、前年度よりも大きく数値を伸ばしている。子供たち一人一人の指導にあたり、教職員自身が心身にゆとりをもって接することが大切さになる。保護者や関係機関の皆様に賛同をいただく中、日課表の見直しを行ったり、文書処理のペーパーレス化を実現したり、実効性のある取組を始めてきている結果の表れと考える。

一方、設問1の危機管理と設問5の校内研究、設問6の校務支援システムの活用に関する事項において、前年度と同様に、Aの回答率が比較的低くなっている。

(2) 改善策について

- ① 「危機管理マニュアル」のさらなる見直しと充実を図る。日々の教育活動において「危機管理マニュアル」の活用と改訂を行っていく。教職員に対する「危機管理マニュアル」の周知や各種避難訓練の実施を的確に行う。訓練においては、その都度、振り返りをし、マニュアルの最新の状態にする。南海トラフ地震の緊急情報発令時の対応など、教育委員会、保護者、地域と連携した対応手順の確認を急ぎたい。
- ② 教職員による校内研究は、学校経営方針の具現化を目指す組織研究である。子供主体の学びへの転換を図り、子供たちが楽しいと思える授業を創造するために、研究授業を行ってきた。今後は、校内研究での成果を教職員一人一人に再度フィードバックし、日々の教育活動につなげ、指導力向上につなげていく。

Ⅲ 学習指導について

(1) 達成状況について

番号	Ⅲ 学習指導について 質問内容	令和5年度				令和6年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う 回答率%	そう思う 回答率%	ややそう思わない 回答率%	そう思わない 回答率%	とてもそう思う 回答率%	そう思う 回答率%	ややそう思わない 回答率%	そう思わない 回答率%
1	あなたは、児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている。	42.3	57.7	0.0	0.0	48.3	51.7	0.0	0.0
2	あなたは、個に配慮した基礎、基本の定着を図る授業を行っている。	46.2	53.8	0.0	0.0	48.3	51.7	0.0	0.0
3	あなたは、指導と評価の一体化に努めた授業を行っている。	34.6	65.4	0.0	0.0	37.9	62.1	0.0	0.0
4	あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。	26.9	65.4	3.8	3.8	27.6	62.1	10.3	0.0
5	あなたは、協働的な学びを取り入れた授業を行っている。	37.5	62.5	0.0	0.0	37.9	62.1	0.0	0.0
6	あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。	39.1	60.9	0.0	0.0	34.5	65.5	0.0	0.0
7	あなたは、思考力・判断力・表現力を伸ばすような問題解決型授業に取り組んでいる。	18.2	77.3	4.5	0.0	21.4	78.6	0.0	0.0

凡例

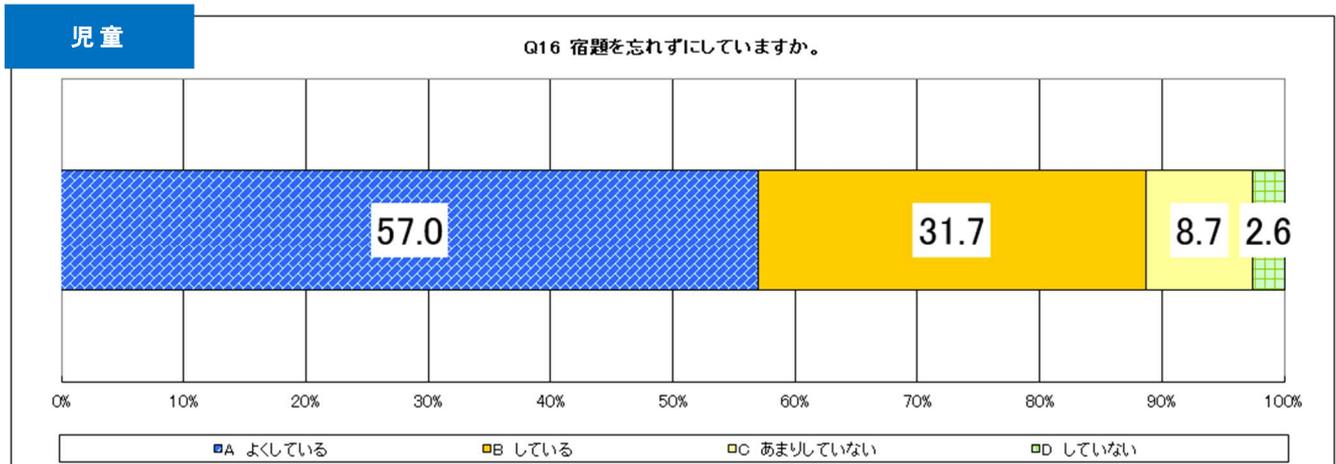
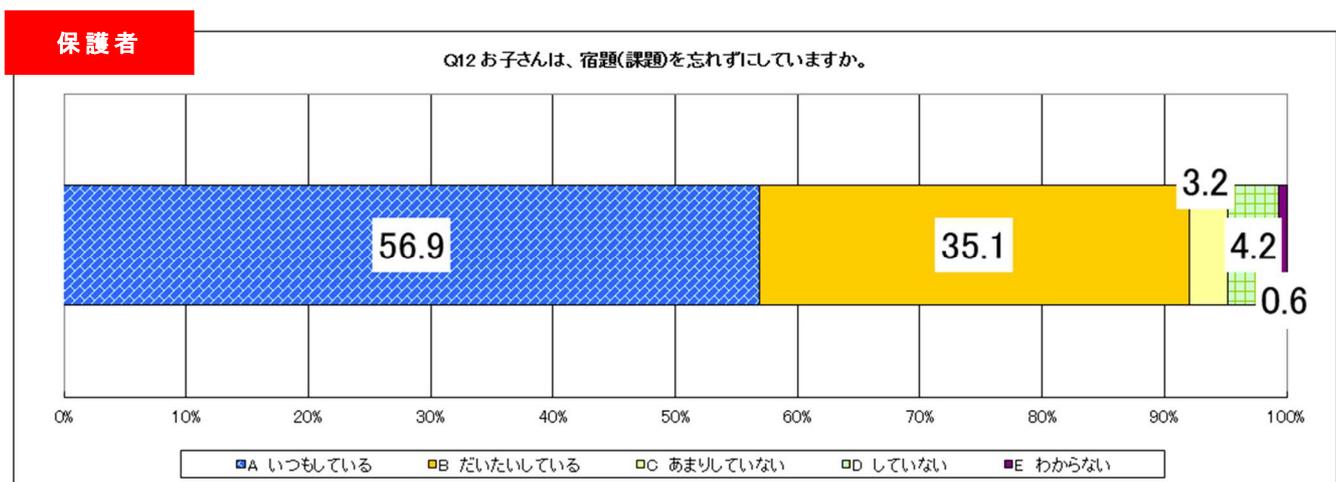
←前年度よりAの回答率が上がっている項目

←2年連続でAの回答率が下がっている項目

全ての項目において前年度と同様にB評価の値が高い。県全体の状況と同様に、ここ数年、経験豊かなベテラン教員が少なくなり、学習指導法などのOJTの機会が減ってきている結果が表れていると考えられる。

特に、設問6の宿題や家庭学習に対する指導については、前年度よりもAの値が下がってしまっている。

甲斐市では、家庭学習の目安として「学年×10分+10分」としている。小学生アンケート、保護者アンケートを見ると、「宿題を忘れずにしている」という設問において、92%の子供たち、88.7%の保護者が肯定的な回答をしている。これは前年度とほぼ同様の結果であり、家庭での学習がほぼ定着している様子がうかがえる。しかしながら約8%の子供たちがC・Dと回答しており、家庭学習への取組のさらなる指導が必要である。



(2) 改善策

- ① 学年主任を中心に各教科の学習評価を再確認し、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を意識した評価を明確にして授業を行うようにしていく。学習の「めあて」がその授業の評価規準もあらわしている。引き続き、「やまなしスタンダード」で求められる「めあて」と、それに正対する「まとめ」を明確化に意識した授業づくりを行っていく。

② 各家庭に配付している「家庭学習の手引き」を活用し、より家庭との連携を深めていく。また、個別懇談、学年だより等を通して、自主学習の取組方法など、各家庭への啓発に努めていく。

IV 生徒指導について

(1) 達成状況

番号	IV 生徒指導について 質問内容	令和5年度				令和6年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
1	あなたは、民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている。	48.0	52.0	0.0	0.0	48.3	51.7	0.0	0.0
2	あなたは、児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。(対：児童生徒)	60.7	39.3	0.0	0.0	71.0	29.0	0.0	0.0
3	あなたは、児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。	42.9	57.1	0.0	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0
4	あなたは、キャリア教育(キャリア・パスポートの活用・進路指導など)を児童生徒の実態に応じて行っている。	13.0	87.0	0.0	0.0	24.1	75.9	0.0	0.0
5	あなたは、問題行動(いじめ、不登校等)の早期発見・早期対応ができています。	42.3	57.7	0.0	0.0	44.8	55.2	0.0	0.0
6	あなたは、「明るく元気な竜の子15か条」を意識して、生徒指導に取り組んでいる。	50.0	50.0	0.0	0.0	55.2	44.8	0.0	0.0

凡例

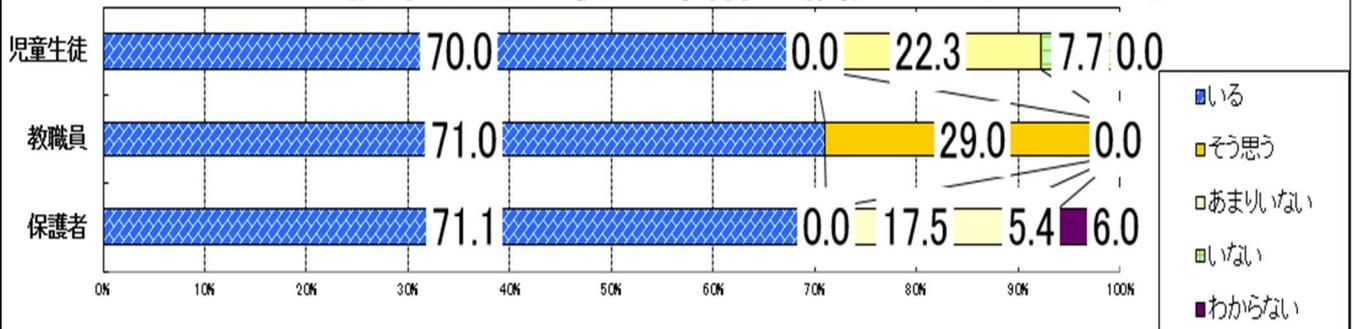


←前年度よりAの回答率が上がっている項目



←2年連続でAの回答率が下がっている項目

教師と児童生徒との関係～相談できる先生がいる



●児童保護者…相談できる先生がいる。

●教職員…児童生徒とコミュニケーションをとっている。

生徒指導についての達成状況についても、すべての項目において、肯定的な回答となり、かつ前年度よりAの回答率が高くなっている。教職員が、子供たちに寄り添い、きめ細かな児童理解の上で教育活動を行おうとしていることがうかがえる。その中でも、設問2の子供たちとコミュニケーションについては、Aの回答率が高くなっている。その成果は子供たちや保護者の意識にも同じように表れている。

(2) 改善策

子供たちの問題行動については、教職員や保護者等による早期発見と早期対応が何より重要である。できるだけ素早い対応ができるよう、日頃からの学級経営の充実を図ったり、児童・保護者とのコミュニケーションを深めたりしていく。また、問題行動に対する組織的な対応ができるよう、ケース会議や校内支援委員会を状況に応じて開いたり、SCやSSW、市の子育て支援課、県の児童相談所など関係機関と連携したりしながら、全教職員の共通理解のもと、問題解決にあたっていく。

V 地域との連携について

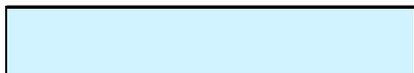
(1) 達成状況

番号	V 地域との連携について	令和5年度				令和6年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
質問内容		回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。	29.6	59.3	7.4	3.7	25.8	74.2	0.0	0.0
2	あなたの学校は、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。	37.0	55.6	3.7	3.7	45.2	54.8	0.0	0.0
3	あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。	66.7	33.3	0.0	0.0	61.3	38.7	0.0	0.0
4	あなたは、PTA活動に積極的に参加している。	30.0	63.3	3.3	3.3	32.3	67.7	0.0	0.0
5	あなたの学校は、地域・保護者と連携し、児童生徒の安全確保に努めている。	46.7	53.3	0.0	0.0	58.1	41.9	0.0	0.0
6	あなたの学校は、地域協力者へ情報提供を行い、学校・地域の教育力向上に努めている。	51.7	44.8	3.4	0.0	56.7	43.3	0.0	0.0

凡例



←前年度よりAの回答率が上がっている項目



←2年連続でAの回答率が下がっている項目

今年度は、前年度と違い、全ての項目において肯定的な回答となっている。教育諸課題解決には保護者や地域との連携が欠かせない。保護者や地域の方を講師に招聘した国際貢献出前授業、昔のあそび体験、ミシンボランティア、外部と連携した消費者教育、SDGsについて考える環境教育、プログラミング学習、修学旅行事前学習など、今年度は多くの実践を行った。授業以外では、保護者や地域住民による、毎日の子供たちの登下校の見守り、通学路点検など安全面において協力を得ることができた。

(2) 改善策

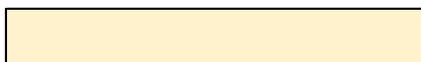
- ① 学校からの情報発信については、今後も継続して、学校だよりやホームページを積極的に活用していく。また、本校は、保護者への連絡手段として安心メールの加入率が100%である。メールでの配信でよいもの、紙ベースで周知したらよいものを精査しながら、効果的に情報を発信し、開かれた学校としての説明責任を果たしていく。
- ② PTA活動は、会長はじめ本会役員の皆様の尽力により、「竜小まつり」や「教育講演会」を充実するものにできた。これらは、学校とPTAが連携して、子供たちの教育を考える良い機会となっているので、今後も継続して取り組んでいきたい。
- ③ 今年度は、学校運営協議会を設置した初年度である。社会に開かれた教育課程を実現するためにも、委員との連携は不可欠である。学校行事等には積極的に来校していただき、学校の様子を見ていただきたい。その上で意見をいただきたい。子供たちのためにどのように連携していくことがよいか話し合いを進めていきたい。

VI 学校の特色に関して

(1) 達成状況

番号	VI 学校の特色に関して 質問内容	令和5年度				令和6年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
		回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	
1	児童が積極的に「読書活動」に取り組むよう、指導に努めている。	39.3	60.7	0.0	0.0	43.3	56.7	0.0	0.0
2	「児童会行事」に、児童が進んで取り組むよう、指導に努めている。	51.7	48.3	0.0	0.0	51.7	48.3	0.0	0.0
3	状況に応じて、日課表の見直しや時間割の工夫を行い、授業時数の確保に努めている。	51.7	44.8	3.4	0.0	77.8	22.2	0.0	0.0
4	教育機器（クロームブックなどのICT機器を含む）を、積極的に取り入れた活動を行っている。	41.4	58.6	0.0	0.0	51.7	48.3	0.0	0.0

凡例



←前年度よりAの回答率が上がっている項目



←2年連続でAの回答率が下がっている項目

他と比較して、設問3についてAの回答率が高い。ノーチャイムでの確実に時間を守る児童の育成に努めてきていることにより、授業時間をしっかりと確保できている表れだと思う。

本校はICT先進校である。今年度は、クロームブックの家庭への持ち帰りも本格的に始めた。個別最適で協働的な学びを実現するため、授業場面での活用も多く行われるようになってきている。

(2) 改善策

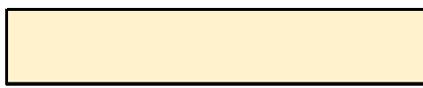
- 今後も、校長が示す経営方針を教職員が共通理解し、学校の長所を伸ばし、短所を改善しながら学校の特色化を図っていくことが大切である。教職員が入れ替わり、担任学年が変わっても、組織的な対応により、本校の特色を生かす指導ができるようにしていかなければならない。

VII 創甲斐教育について

(1) 達成状況

番号	VII 創甲斐教育について	令和5年度				令和6年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
質問内容		回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	様々な言語活動を通して、言語能力の向上に努めている。	37.0	63.0	0.0	0.0	60.7	39.3	0.0	0.0
2	学級活動において、相手のよさを自分の言葉で表現する取組を行っている。	30.8	69.2	0.0	0.0	59.3	40.7	0.0	0.0
3	おたよりの発行等を通し、体づくりや運動習慣づくりに家庭と連携して取り組んでいる。	42.9	57.1	0.0	0.0	55.2	44.8	0.0	0.0

凡例



←前年度よりAの回答率が上がっている項目



←2年連続でAの回答率が下がっている項目

どの設問もAの回答率が高くなった。引き続き、言語能力の向上、よさをみとる教育活動の推進、体力づくりの取組の充実を教職員一丸となって取り組んでいく。

(2) 改善策

- どの学級、学年においても、指導が一貫して行われるように、「聞き方、話し方スキル」の確認や、「ほめ言葉のシャワー」の取組方法等について、年度当初の早い段階に教職員研修を行っていく。

3 まとめ（成果と課題）

I 学校教育目標・学校経営について	
成果	課題
◎学校教育目標を基にした学校経営と、それを受けた学校運営，教育活動の実施	●カリキュラムマネジメントによる確実なPDCAの実施 ●学校体制で取り組む特別支援教育
II 学校運営について	
成果	課題
◎教職員一人一人の主体的な参画 ◎日課表の見直し等による働き方改革	●危機管理マニュアルの的確な運用 ●校内研究の確実なフィードバック
III 学習指導について	
成果	課題
◎学習規律の徹底やよさのみとりによる学びに向かう姿勢づくり	●学年主任を中心としたやまなしスタンダードにもとづく授業づくり ●家庭学習と連携した学びの啓発
IV 生徒指導	
成果	課題
◎児童とのコミュニケーション ◎きめ細かな指導に対する保護者，児童からの信頼	●問題行動の早期発見・早期対応のための学級経営
V 地域との連携	
成果	課題
◎保護者，外部と連携した教育活動の推進	●安心メールと学校ホームページのより効果的な活用 ●PTA主催行事の取組の継続 ●学校運営協議会を中心とした地域との連携
VI 学校の特色	
成果	課題
◎授業時間の確保 ◎ICTの積極的な活用	●長所を伸ばし，短所を改善することによる特色化
VII 創甲斐教育について	
成果	課題
◎聞き方，話し方スキルによる言語能力の向上 ◎よさのみとりをすすめる「ほめ言葉のシャワー」 ◎家庭と連携した体力づくりの推進	●教職員研修による一貫した指導体制の確立

来年度以降も，特色ある，地域の学校としての役割を果たしていけるよう，「まるかって」全教職員一丸となって取り組んでいく。